

化学・非鉄金属業種の進捗状況の概要（2014年度実績）

			目標設定 について (継続論点)	昨年度の 取組実績について (継続論点)		低炭素社会実行計画の柱に沿った調査票の章立て (詳細内容はフォローアップ調査票を参照)								目標設定 について (継続論点)
	目標指標	基準年度 ／BAU	2020年目標	2014年度実績	進捗率	想定比	2015年度 の見通し	CO2排出量 2014年度実 績 (万t-CO2)	2030年目標 策定状況		低炭素製品・ サービス等に よる他部門で の貢献	海外での 削減貢献	革新的技術 の開発・導入	策定目標の 見直し
日本化学工業協会	CO2排出量	BAU	▲150万t-CO2*	▲115万t-CO2*	77%	217%	○	6,222	○	CO2排出量 BAU比 ▲200万t-CO2	リストアップ ・ 定量化	リストアップ ・ 定量化	リストアップ ・ 定量化	-
石灰製造工業会	CO2排出量	BAU	▲15万t-CO2**	▲12万t-CO2**	80%	-	-	246.2	○	CO2排出量 BAU比 ▲12万t-CO2 (2020年度基準)	リストアップ ・ 定量化	-	-	-
日本ゴム工業会	CO2原単位 (生産量: t)	2005年度	▲15%*	▲9.4%*	62.5%	-	-	202.7 (166.2 *)	○	CO2原単位 2005年度比 ▲21%	リストアップ ・ 定量化	-	リストアップ	-
日本アルミニウム協会	エネルギー原単位 (圧延量: t)	BAU	▲0.8GJ/t	▲1.4GJ/t	175%	-	-	147.3	○	エネルギー原単位 BAU比 ▲1.0GJ/t	リストアップ ・ 定量化	リストアップ ・ 定量化	リストアップ	-
日本電線工業会	エネルギー消費量	1990年度	▲26%	▲36%	142%	128%	○	91.6	○	エネルギー消費量 1990年度比 ▲27%	リストアップ ・ 定量化	リストアップ	リストアップ	○
日本伸銅協会	エネルギー原単位 (生産量: t)	BAU	▲1%	▲7.5%	753%	-	○	45.6	○	エネルギー原単位 BAU比 ▲1%	リストアップ ・ 定量化	-	-	-

（注1）2014年度実績及び2015年度の見通しについて、基準年度比での削減目標を掲げた業種は基準年度比の削減率を、BAUからの削減目標を掲げた業種はBAUからの削減量をそれぞれ記載。

（注2）「進捗率」は、目標水準と比較した2014年度実績の比率。【進捗率＝（基準年度の実績水準－当年度の実績水準）／（基準年度の実績水準－2020年度の目標水準）×100（％）】

（注3）「想定比」は、2014年度について予め想定した水準と比較した実績値の比率。【想定比＝（基準年度の実績水準－当年度の実績水準）／（基準年度の実績水準－当年度の想定した水準）×100（％）】

（注4）「目標の引き上げ」は、低炭素社会実行計画においてこれまで目標を変更した年度及びその水準。

（注5）電力のクレジット等調整後排出係数（受電端）と各業界のクレジット量等の償却量・売却量に基づいて算定。
* 日本化学工業協会・日本ゴム工業会は、電力排出係数0.423kg-CO2/kWh（2005年度受電端）に基づき算定。

** 石灰製造工業会は実排出係数に基づき算定。

（注6）着色している業種は、2014年度実績において進捗率が100%を超過している業種。ただし、各業種とも、最終的には2020年実績で目標を達成することとしている。

（注7）原単位目標を掲げる各団体の生産活動量は、以下の団体を除き「生産量」を採用。

+ 日本アルミニウム協会は「圧延量」を採用。 ++ 日本電線工業会（光ファイバー）は「生産長」を採用。

（注8）低炭素製品・サービス等による他部門での貢献は、リストアップ有（定量化含む）、－（検討中）と表記

（注9）海外での削減貢献は、リストアップ有（定量化含む）、－（検討中）と表記

（注10）革新的技術の開発・導入は、リストアップ有（定量化含む）、－（検討中）と表記

（注11）日本電線工業会は、2つの目標（メタル電線・光ファイバー）を2015年度から統合。